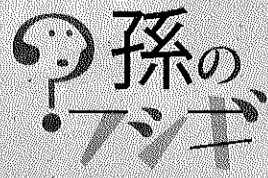


# 子育て

seikatsu@asahi.com

日曜掲載

## 団塊男性 地域の大黒柱に



みんなで育てる

子どもを育てていくには、地域の支えが不可欠。その担い手として、団塊世代の男性が注目されています。もともと仕事一筋で、地域にも子育てにも疎遠だった男性が少なくなっている。地域の孫育てに上手に関わるには、

### 豊かな企業経験 魅力

先月の土曜日、東京都港区の子育てひろば「あい・ほーと」。ハンダナを頭に巻いた年配の男性たちが、餅を振り下ろし、餅をついていた。子どもたちから「がんばって」「アザギ」とかけ声が上がると、「張り切っちゃおうよ」と喜んだ。



餅つきが始まると、子どもたちが興味津々に近づいてきた。3月、東京都港区

さんらは約20人。まごめ役を務めた武部寛聡さん(66)は、ディスプレイ関連の会社の元社員で、イベントの段取りには慣れている。道具は知人に借りて経費を節約し、必要な手続きを早めに保健所に確認。役割ごとに班を分け、それぞれに責任者を置き、突発的なことに対応する人も確保した。

武部さんは、自身の息子2人の子育てには「ほとんど関わらなかつた」と振り返る。子どもたちが思春期に入り、会話が少なくなったころ、近所の人に「お宅の息子さんはあいつをよくやる」と言われた。自分以上に妻が喜ぶのがうれしかった。親以外の存在は、子どもにも親にも励みになると考えている。

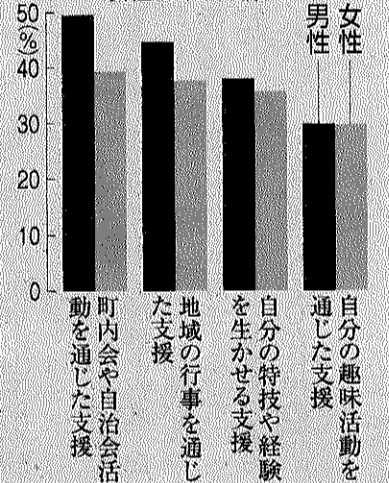
### 気負わず、育児の知識学ぼう

団塊の世代(1947〜49年生まれ)は、2000年代の後半に定年を迎えた。65歳前後まで働くケースも少なくなく、「地域デビュー」がよい本格化している。

子どもを預けたい会員と預かる会員を引き合わせる「ファミリーサポートセンター」して活躍しているという。この世代の男性は、子育て経験の少ない人が多い。「さあ、出番だ」と出て行きたくなる。まずはファミリーサポートの講習会などで最近の育児の知識を身につけよう。気負いすぎたり、体力を過信したりしないことも、長く続けるコツだ。

#### 参加してもよいと思う子育て支援

50〜79歳の男性392人、女性388人が回答



第一生命経済研究所の「子育てをめぐる世代間関係調査」(2008年発表)から上位四つを抜粋(複数回答)

子どもへのまなざしが温かい。子どもも「このおじさん、僕のことか」とか好きそうだとすぐに感じ取る。ただし、注意点もある。「企業社会でのコミュニケーションは、子育て支援には通用しない」と汐見さんは言う。

地域のつながりが薄れ、多様な職業の人と接する機会が減っている。「みなさんには人生経験に裏打ちされたオーラがあります。働く喜びやつらさ、人生の失敗を、ぜひ子どもたちに語ってほしい」。白梅学園大学長の汐見裕幸さんも、「自分を鍛えてきた人は、行動の端々に『プロらしさ』がにじみ出る」と話す。例えばものづくりをしてきた人は、何かを作って遊んでいる

●病院でかぜ薬をもらい、せきが治ってきた。朝か



●中学生のお兄ちゃんが「昔は、米の代わりにア

●新学期前に、肩まであった髪をぱさぱさ切った。

来月、「あのね特集」